

令和7年度（横須賀工業高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
①法令遵守意識の向上	「公務員・社会人としてあってはならない非違行為の防止」を重点項目とし、公務員としての自覚を確認し、社会人として法令等の遵守を徹底し、すべての校務外非行を未然に防止する。	校内の法令遵守に関する意識が高まり、教職員間での情報共有や管理職への相談が増加した。また研修により、法令遵守への意識が全教職員に浸透し、結果、校務外での非行事案はゼロ件を達成することができた。教職員間での相互チェックや相談体制が確立されており、問題の早期発見・対応が可能となった。ただし、一部教職員において意識低下が見られるため、研修内容の質を向上させる工夫が必要と考えている。法令遵守意識の向上を継続的に維持するため、より具体的な事例を取り入れた研修の実施や、外部との連携を強化する必要がある。
②職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ）の防止	職員が能力を十分に発揮できるような良好な勤務環境づくりを促進するため、職場のハラスメント防止にむけて組織的で恒常的な取り組みを行う。	職場環境改善の成果について、職員間のコミュニケーションが活性化し、職員同士が相互に支え合う文化が形成されつつある。その結果、ハラスメント事案の早期発見・対応が可能となり、職場環境の改善が進展した。職員が安心して働ける環境が整備され、能力を十分に発揮できる状況が醸成されつつある。ハラスメント防止には管理職のリーダーシップが重要であるが、管理職が部下とのコミュニケーションやハラスメント防止に関する知識が不足している可能性がある。今後は、管理職向けの専門研修を通じて、職場環境の改善を率先して行えるリーダーシップの強化を図る。
③児童・生徒に対するわいせつ、セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為を未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為を行っている職員はゼロを目標とする。	行動規範の周知状況について、規範の内容をほとんどの職員が理解しており、具体的な禁止事項についての認知度が向上した。職員間での情報共有も活発化している。結果、わいせつ・セクハラ行為の発生はゼロ件を達成。職員全体に未然防止の意識が浸透した。生徒への不適切な行為を未然に防止するためには、管理職の積極的な観察と指導が重要である。今後は、管理職が職場環境を率先して改善できるリーダーシップを強化する必要がある。

④体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重する意識の向上を図り、適切な指導を心がけ体罰、暴言等の不適切な指導の徹底防止に努める。体罰・不適切指導を行っている職員はゼロを目標とする。	職員が研修に参加し「生徒の人権を尊重する指導の重要性を再認識した。」と回答している。指導ガイドラインの周知したことによりガイドラインの内容を職員が理解しており、具体的な禁止事項や適切な指導方法についての認知度が向上した。新たな体罰や不適切指導の発生はゼロ件を達成。職員全体に未然防止の意識が浸透した。 今後の課題として、相談窓口の信頼性強化、未然防止の仕組みの構築が挙げられる。これらを着実に実施することで、生徒の人権を尊重した指導が徹底され、体罰・不適切指導ゼロの状態を恒常的に維持することが期待される。
⑤入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	入学者選抜業務をはじめ、成績処理、進路関係書類作成に適切な点検体制を整備し、全職員が使命と役割を自覚してミスのない業務を行う。また、正確で遅滞のないような業務遂行を徹底する。	適切な点検体制の整備や職員研修の実施を進めるとともに、全職員で対応する意識を周知したことが成果につながった。早期に入選マニュアルを配布したことで業務対応の理解が深まり、さらに電子システムの導入によって入学者選抜・成績処理・進路関係書類作成におけるミスはゼロ件を達成した。職員の意識向上も図られ、業務正確性の重要性を再認識したとの回答が得られた。目標である「ミスのない業務遂行」は達成されたが、さらなる効率化が今後の課題である。
⑥個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	機器の管理を含め、電子情報の適切な取扱い及び管理の徹底に努め、個人情報流出等の事故を未然に防ぐ。	職員全員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報の適切な取扱い方法や管理の重要性を徹底した。また、電子情報の管理体制を強化し、機器の持ち出しルールやパスワード管理の厳格化を導入。結果、個人情報流出や事故はゼロ件を達成した。目標である「個人情報流出の未然防止」は達成されたが、情報セキュリティ意識のさらなる向上が今後の課題である。
⑦交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を守り、交通事故の発生を未然に防止し、酒酔い、酒気帯び運転を根絶する。	職員全員に対し交通法規遵守や飲酒運転防止に関する研修を実施し、交通事故防止の重要性と責任を再認識した。また交通ルール遵守の意識向上を図った。さらに、定期的な啓発活動を行った結果、交通事故の発生はゼロ件を達成し、酒酔い・酒気帯び運転の報告もなかった。目標である「交通事故防止と飲酒運転根絶」は達成されましたが、意識の継続的向上が今後の課題である。
⑧業務執行体制の確保等	風通しのいい職場環境を構築し、職員間で常に情報を共有・業務確認できるような体制づくりに取り組む。	グループ会議を開催することで業務内容や進捗状況を共有する体制を構築できた。また、情報共有を円滑にするため、電子掲示板を通じて職員間の連携を強化した。ほとんどの職員が「業務確認や情報共有がスムーズになった」と回答している。職場環境の改善により、風通しの良い業務執行体制を実現し、目標は達成されました。今後は、さらに効率的な情報共有ツールの活用やコミュニケーションの質向上が課題である。

⑨会計事務等の適正執行	私費会計の適正な執行についての共通理解を深め、チェック体制の徹底を図り、私費会計に係る事故を未然に防止する。	職員全員を対象に私費会計の適正執行に関する研修を実施し、法令や規程に基づく正しい会計処理について共通理解を深めた。また、ダブルチェック体制により会計処理の透明性と正確性を確保した。結果、私費会計に係る事故はゼロ件を達成した。目標である「私費会計事故の未然防止」は達成されましたが、継続的な監査体制の強化と職員の理解をさらに深める取り組みが今後の課題である。
⑩実験・実習における事故防止	実験・実習における事故を未然に防止する。	実験・実習における安全管理研修を全職員に実施し、危険物の取扱い方法や緊急時対応の手順を周知した。また、安全点検体制を強化し、器具や設備の管理を徹底した。しかし、実験・実習中に生徒・職員のけがが数件発生しました。これを受け、事故原因を調査し、器具の使用方法や作業環境の改善、さらに安全指導の強化を行った。目標である「事故の未然防止」は完全達成には至らず、今後はリスクアセスメントの徹底や安全教育のさらなる充実に取り組む必要である。

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

本プログラムでは、法令遵守意識の向上やハラスメント防止、児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為防止、交通事故防止など多岐にわたる課題に対し、具体的な目標を設定し、成果を上げました。ゼロ件達成を目指した取り組みでは多くの目標を達成しましたが、実験・実習中のけがの発生や一部職員の意識低下が課題として残っています。今後は研修内容の質向上、相談窓口の信頼性強化、安全管理の充実に注力し、安心・安全な教育環境の維持とさらなる改善を目指します。